

令和4年7月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和4年7月22日（金）13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

＜報道機関＞読売新聞、山形新聞、河北新報、置賜日報、NHK、YTS

＜市＞市長、秘書広報課長、市立病院事務局長、選挙管理委員会事務局長

4 記者倶楽部からの質問事項

（1）参院選の開票結果の受け止め

市長が推した新人候補が、市内では約5000票の大差をつけられました。政権与党とのパイプに期待する声は市民に響かなかったと思いますか。

（2）開票は新たな投票分類機で行われ、配置する職員も減らして人件費を削減しましたが、確定時間は期待したほど早まりませんでした。

今回の結果についての評価と来春の市議選開票作業へ向けての課題をお聞かせください。

（3）市立病院と三友堂病院の開院へ向けて、地域医療連携推進法人設立の準備状況はどうなっていますか。

国や県に対し、具体的にはさらにどんな支援を求めていますか。

（4）その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度7月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、初めに記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

今回のご質問は3点ありました。まず1点目は、「参院選の開票結果の受け止めについて、市長が推した新人候補が、市内では約5000票の大差をつけられました。政権与党とのパイプに期待する声は市民に響かなかったと思いますか」という内容です。今回、40日間という短い期間での選挙戦への突入でした。そんな中で、政権与党とのパイプへの期待について一定程度の評価は得たと思います。しかし残念な結果

になってしまいました。それだけ、現職が強かったのだと思います。

2点目は、「開票は新たな投票分類機で行われ、配置する職員も減らして人件費を削減しましたが、確定時間は期待したほど早まりませんでした。今回の結果についての評価と来春の市議選開票作業へ向けての課題をお聞かせください」という内容です。投票用紙分類機の導入は、開票作業に関する職員の負担軽減と人件費削減、開票作業の時間短縮が目的です。開票作業全体に従事する職員は、前回の参議院選挙の215人から56人削減し159人となり、そのうち投票用紙の開披と分類の従事者は、前回の62人から39人削減し31人とすることができました。概算で、時間数は100時間弱程度、金額的には25万円程度の削減ができました。一方で開票作業全体の時間短縮に至らなかったことに関しては、今後の課題と受け止めています。要因として考えられるのは、開票作業の流れをこれまでとは異なる作業に変更したことです。これまでの開票作業は、選挙区と比例代表を同時進行で行っていましたが、今回は初めに選挙区を開票し、その後に比例代表を開票する流れに変えました。初めての試みで、開票従事者のほとんどが未経験の作業だったので、期待していた作業時間短縮には至らなかったのだと思います。

来春は、4月前半に県議選、後半に市議選の統一地方選挙があります。市民にとって最も身近で関心の高い選挙なので、公正性、正確性を第一義として開票作業全体の精度や迅速性をさらに高めていく必要があると思います。

3点目は、「市立病院と三友堂病院の開院へ向けて、地域医療連携推進法人設立の準備状況はどうなっていますか。国や県に対し、具体的にはさらにどんな支援を求めていますか」という内容です。現在、法人設立に向けて色々取り組み、調整をしています。令和4年12月までには医療連携推進方針、定款を作成し、令和5年2月の一般社団法人の設立、登記に向けて準備を進めていきます。それができた段階で、県が主催する置賜地域医療構想調整会議において地域医療連携推進法人の認定申請に向けての承認を頂き、令和5年9月頃までには、承認を頂いたものについて山形県医療審議会にて意見聴取をする予定です。その後、令和5年11月1日の新病院開院に向けて県知事の認定を頂くという流れになっており、地域医療連携推進法人運用が、新病院の開院と同時に開始されるスケジュールを検討しています。細部については、ご質問があれば担当の職員から説明いたします。

○記者

参院選について伺います。今後舟山議員に期待すること、ともに目指したい方向性がありますか。

○市長

どのような立場の方であれ、これまでも市の重要事業については要請してきました。今後もそのような部分は変わりません。舟山議員との連携も続けていきます。

○記者

投票用紙の開披と分類の従事者の人数について、「前回の62人から39人削減し31人とすることができました」とのことでしたが、間違いではないですか。

○市長

申し訳ございません。正しくは、「前回の62人から39人削減し23人とすることができました」です。

○記者

医療法人について伺います。新法人のトップになる方は考えていますか。

○市立病院事務局長

二病院でスタートすることになっていますが、そのうち誰がトップになるかについては現在協議中です。詳細は決まっていないので、定款も含めて報告していきます。

○記者

新しい法人ができて、そこに市立病院と三友堂病院がぶら下がるというイメージでよろしいですか。

○市立病院事務局長

その通りです。最初は二病院でスタートして、それぞれが法人を持ちます。

○記者

最初とはいうことは、どこかで違う形になるということですか。

○市立病院事務局長

定款に設立の目的などを盛り込んでいくわけですが、大きな目的として、まずは二病院でスタートしますが、将来的には福祉施設や介護施設などの地域包括ケアという考え方に基づいた法人にも参画していただくということも想定しています。

○記者

新病院の工事は、予定通り順調に進んでいますか。

○市立病院事務局長

若干の遅れはあるものの、ほぼ予定通り進んでいます。

○記者

新病院の建設があるせいで、今の病院の運営に悪い影響が出ているということはありませんか。

○市立病院事務局長

駐車場が遠くなり患者さんにはご迷惑をおかけしていますが、大きな問題は生じていません。

○記者

三友堂病院の建設も始まっていますか。

○市立病院事務局長

始まっています。進捗としては、若干市立病院の方が進んでいると思います。

○記者

ウクライナ問題や円安の影響で、建設資材の高騰あるいは資材が入ってこないということを耳にしますが、建設費の大幅な増加など懸念されることはありますか。

○市立病院事務局長

受注者側からもそのような話は出ています。正式な書面で頂いているわけではあり

ませんが、増額になる部分の金額の協議は現在チームレベルで行っている最中です。

○記者

いつぐらいに増額された金額はわかりますか。

○市立病院事務局長

受注者側からご提示いただいた金額が妥当な金額なのか検証している最中なので、明確にいつまで変更契約ができるかということは今の時点では申し上げられません。

○市長

1点質問に対する回答が抜けていました。「国や県に対し、具体的にはさらにどんな支援を求めていますか」ということについては、令和5年度の米沢市の重要事業要望事項の一つとして、米沢市立病院建設事業の推進を挙げています。具体的には、自治体病院再編・ネットワーク化に係る病院事業債特別分について、全国初の取り組み「米沢モデル」として進めており、財源の確保に向けて、整備費全額を交付税の対象とすることを県や国に要望しています。

○記者

整備費全額を交付税の対象とすることを要望しているとのことでしたが、具体的にはいくらぐらいですか。

○市立病院事務局長

解体撤去を含め、医療機器とは別に市立病院分だけで税抜き96億円です。

○記者

三友堂病院分は、市からは要望しづらいのですか。

○市立病院事務局長

自治体に対する地方交付税なので、民間は対象になっていません。三友堂病院は別に県からの補助金を受ける予定になっていると思います。

○記者

今回の建設に関して、市から三友堂病院に対しての支援はありますか。

○市立病院事務局長

国交省の都市構造再編集集中支援事業での補助金があります。令和3年度の予算ですが、市と国で2分の1ずつの合計5億円の補助を予算としています。

○記者

共有スペースは市で持つのですか。

○市立病院事務局長

共有スペースという概念はなく、必ずどちらかに所有区分されています。真ん中にあるアメニティセンターもまた別の所有区分になっており、マンションの所有区分のようなイメージです。

○記者

コロナについて伺います。感染者が増えていて、市立病院の職員が連続で感染しています。入院制限がかかり市民の方への影響も出てくると思いますが、改めて市民への呼びかけと、現状について市長の考えをお聞かせください。

○市長

感染者が下火になった時期がありましたが、ここ最近急激に増加してきました。軽症といえども、どこまで感染拡大が進んでいくか未知の部分があり、爆発的な感染拡大に大きな危機感を持っています。改めてワクチンの3回目接種、あるいは4回目接種を若い人を中心に声掛けをしていきます。また基本的な感染防止対策について、改めて市民の方をお願いをしていきます。昨日、今日と今までにない感染者が出ていますので、拡大しないようになんとか抑えていきたいと思います。市立病院のことについては、担当より回答いたします。

○市立病院事務局長

市立病院についても、職員および患者に感染者が増えており、大きな危機感を持っています。昨日の夕方、一部診療の制限がありました。救急車の受け入れの中止ということで、消防および近隣の病院に配慮をお願いしました。コロナ患者についても、満床ではありませんが、現在8床のうち6床が埋まっています。職員と患者から感染者が出た関係で、関係病棟の医師も含めた職員および患者全員の検査をしている最中です。まだ一部結果が出ておりませんが、本日公表分まで含めて職員11名、患者5名の感染者が出ております。一度陰性になったとしても、退院時には再度検査をして安全を確認してから退院していただくということも考えています。入退院も警戒しており、感染した職員も通常7日間のところ10日間休ませています。10名以上がまだ復帰していませんので、職員が減っている状況です。感染者が出た病棟に関しては、入院の受け入れを中止しており、これ以上広まらないように徹底的に検査をして対応していきます。

○記者

昨日の夕方から救急車の受け入れは完全に止めたのですか。

○市立病院事務局長

はい。昨日の夕方に通知をして、救急車の受け入れは他の病院をお願いしています。また紹介患者についてもご遠慮いただきたいということで、米沢市内の診療所、東南置賜の主要な病院に通知をしています。

○記者

期間はいつまでですか。

○市立病院事務局長

当分の間と考えています

○記者

救急車の受け入れは三友堂病院になるということですか。

○市立病院事務局長

三友堂病院が中心になると思います。

○記者

三友堂病院に、職員を派遣するということとはできないですね。

○市立病院事務局長

当院自体、看護師を中心にスタッフが不足していますので、それはできません。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度7月の定例記者会見を終了いたします。